

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 6. No. 13 2004 年 8 月 15 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集:橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2004 Kay Office All rights reserved.

ニュースダイジェスト

■ポリコム、インテグレーション向け新 VSX8000 シリーズ、セットトップタイプ VSX7000 シリーズに 2 機種追加、VSX シリーズ向けソフトウェア バージョン 7.0 をリリース



Polycom VSX8000

ポリコム(東京都千代田区)は、8 月 5 日、インテグレーション向けの新製品コーデックタイプテレビ会議システム「VSX8000」と、セットトップタイプ VSX7000 シリーズに新たに 2 機種追加、そして、Polycom VSX テレビ会議システム向けのソフトウェア バージョン 7.0 を発表した。

まず、ソフトウェア バージョン 7.0 については、(1) ProMotion 60fps や H.264 サポートによる高品質の映像クオリティ、(2) 高音質ワイドバンドステレオサラウンド音声が可能 14Khz ポリコム・ステレオ・サラウンド、(3) Microsoft Live Communication Server と Nortel Networks Multimedia Communication Server(MCS)5100、5200 などとの SIP 互換性をサポート、(4) Soundstation VTX1000 との統合、(5) API コマンドのサポート、(6) 多地点での画面分割とチェアコントロール、(7) ISDN での音声通話、(8) QuickTime でのウェブストリーミング、(9) クローズドキャプション(英語のみ)、(10) H.239 People+Content データ共有、(11) SNMP、UPnP、ウェブモニタリング、ウェブ管理などサポート、(12) INS64x4本、INS1500、シリアル(V.35/RS-449/RS-530) などさまざまな回線インターフェイスに対応、(13) 設定により最大 20 地点のテレビ会議、音声会議をサポート可能(最大テレビ会議 10 拠点+音声 10 拠点)、(14) シスコ AVVID をサポートなどが特長となっている。このバージョン 7.0 は、

VSX3000、7000、8000 シリーズの全てに適用される。ソフトウェアの出荷は、7 月下旬出荷開始している。

VSX8000 は、インテグレーション向けに開発されたハイエンドテレビ会議システムで、3 機種 ; VSX8000、VSX8400、VSX8800 がある。ラックマウント型、1U タイプの筐体なため場所をとらず、大会議室、教室、その他さまざまな用途のインテグレーションに高性能なテレビ会議機能を提供する。VSX8000 は、今回同時に発表された、VSX シリーズ向けのソフトウェア バージョン 7.0 を搭載。

VSX8000 シリーズはインテグレーションを念頭に置かれた製品なため、さまざまなインテグレーションニーズに対応できるようになっておりさまざまなインターフェイスを持つ。たとえば、プロフェッショナルビデオコネクタ、フェニックスオーディオコネクタ、米 Crestron や米 AMD など主要な会議室コントロールシステムや、同社の Polycom Vortex 音声システムや Polycom Soundstation VTX1000 などとの連携も可能になっている。具体的には、VSX8000 の背面にある ConferenceLink インターフェイスを利用して VSX8000 と VTX1000 の本体同士を接続。そうすることにより、VTX1000 をマイクとして利用(14khz 16m X12mの広範囲をカバー:拡張マイク利用時)、VTX1000 で音声通話、テレビ会議に参加、また VTX1000 をマイクとして利用することから会議テーブルの配線をすっきりするというメリットもある。

VSX8000 の出荷は、8 月下旬を予定している。

また、今回の新製品発表では、VSX7000 シリーズに新たに 2 機種が追加された。VSX7400 と VSX7800。VSX7000 は、2003 年 10 月に発売したエントリーモデル。(CNAレポート・ジャパン 関連記事:Vol.5 No.17 2003 年 10 月 15 日号)VSX7000 シリーズは、高品質なテレビ会議通信を必要とする会議室向けに高解像度データの共有や多地点接続機能をオプションとして提供する。

■VSX8000比較表

	VSX8000	VSX8400	VSX8800
価格(税抜き)	¥2,200,000	¥2,460,000	¥3,160,000
本体、リモコン	●	●	●
マイク		2	2
ImageShare II		●	●
PowerCam		●	
PowerCam Plus (音声追尾機能)			●
内蔵 MCU			●
ステレオスピーカーキット			●

■VSX7000比較表

	VSX7000	VSX7400	VSX7800
価格(税抜き)	¥998,000	¥1,400,000	¥2,100,000
本体、リモコン、サブウーファー	●	●	●
マイク	1	1	2
People+Content		●	●
セカンドモニターアダプタ		●	●
内蔵 MCU			●
ステレオスピーカーキット			●

*ポリコム発表資料に基づきCNAレポート・ジャパンにて作成

VSX7800 は、IP/ISDN 混在の多地点接続機能(内蔵で4拠点、カスケードで最大10拠点)、VisualConcertVSX に高解像度な H.239 People+Content、セカンドディスプレイ用アダプタ、高品質なスピーカーキット、2つの VSX マイク、ポリコム・ステレオ・サラウンドなどをサポートしたセットトップタイプのテレビ会議システム。

また、VSX74000 は、VisualConcertVSX に高解像度な H.239 People+Content、セカンドディスプレイ用アダプタ、ポリコム・ステレオ・サラウンドなどをサポートしているセット



ップタイプのテレビ会議システム。

VSX7400、VSX7800 の出荷は7月下旬から行われている。国内では、日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)、プリンストンテクノロジー(東京都千代田区)などが販売している。

■トーマンサイバービジネス Visual Nexus 新バージョン 2.2 をリリース

トーマンサイバービジネス(東京都港区)は、同社が販売するPC向け H.323 対応のテレビ会議システム Visual Nexus の新バージョン2.2を発表した。今回のバージョンアップでは、ポリコム、ソニー、タンバーク等のテレビ会議端末から Visual Nexus を多地点サーバとして利用する際の利便性を向上させる目的のもので、(1)テレビ会議の運用を支援する管(次頁へ続く)

-----<AD>-----


 ここまで出来る！今注目の
 ビジネス向け Web 会議

 (CUSeeMe の進化版)

ファーストバーチャルコミュニケーションズ株式会社

<http://www.fvc.com>

-----<AD>-----



アエスラ(Aethra Italy)

電話会議・テレビ会議
世界第4位のテレビ会議
メーカー

<http://cnar.jp/aethra>



HD5000 テレビ会議システム

VCON <http://www.vcon.com>

-----<AD>-----

理ツールの強化、(2)多地点テレビ会議サーバによる4画面分割表示機能の強化により、会議システムの拡張性の向上などが行われている。

バージョン 2.2 の追加機能としては、まず、Visual Nexus Meeting Server(多地点会議サーバ)においては、(1)サーバの管理・運用を行うツールが Web 対応になり、会議室の作成・編集やユーザーの追加・編集等のオペレーションが Web ブラウザ上で行える。(2)4画面分割表示機能を強化し、既存のハードウェアテレビ会議端末における4地点の映像合成機能の対応機種を拡張、(3)対応 OS の追加、Red Hat Linux 9に加え Red Hat Enterprise Linux 3(ES 及び AS)の追加。ただし、Red Hat Linux 7.3 は対象外。

Visual Nexus Endpoint(H.323 クライアントソフトウェア)については、アドレス帳機能を追加し、頻繁にコールする通話先をアドレス帳に管理することによって簡単に通話先を呼び出すことができ、また通話の着信・発信履歴の管理も可能。呼び出し操作の使い勝手が向上。

■トーマンサイバービジネス、英 Visual Nexus 子会社増資

同社の株主向け広報誌「Monthly TCB Vol. 10」(8月16日)によると、Visual Nexus の欧米での販売展開として英国に設立された子会社 Visual Nexus Ltd.が 17 万英ポンド(約 3500 万円)の増資を行ったと報告し、そのうち TCB が 15 万ポンド、同子会社社長のジェフ・シーブルック氏と CTO(最高技術責任者)のステイブ・ディビス氏が 2 万英ポンド出資した。また同子会社の導入案件として、日系の証券会社のロンドン子会社が第一号となった。またロシアの AVICON 社が従来取り扱っていたハードウェア型システムに加えてソフトウェア型システムをラインナップするために Visual Nexus を採用、同社自ら購入していると書かれている。(関連記事:CNAリポート・ジャパン V2.0 リリース:Vol.5 No.21 2003 年 12 月 15 日、英国子会社設立:Vol.6 No.6 2004 年 3 月 31 日)

日本国内では、アイピー・ネット(東京都江東区)などが販

売している。

■アバイア、Spectel を 1 億 300 万 USD で買収

米アバイア社が、音声会議やウェブ会議多地点接続装置やソリューションなどを開発販売する Spectel 社を 1 億 300 万 USD(約 114 億円)で買収。アバイアが Spectel を買収することにより、アバイアの音声会議、あるいはウェブ会議などの製品・ソリューションのラインナップの強化を図る。

アバイアの Spectel 社はアイルランドダブリンと米マサチューセッツ州アンドーバーに拠点がある。同社の社員数は、約 210 名。現在約 500 の法人顧客を持つが、今年 4 月に米ワシントン DC で開催された Broadband Summit2004 で出展していた同社社員に確認したところ、日本には販売パートナーはないようだ。

■アエスラ、シーメンスインドとテレビ会議で提携

アエスラ社は、同社のテレビ会議システム、電話会議システムに関するディストリビューション契約をシーメンスインドと締結した。今後インド国内、スリランカ、ネパール、バングラデッシュ、モルジブ、アフガニスタンでのアエスラ社製品を取り扱う。

シーメンスインドでは、これらの地域でのテレビ会議導入では価格が高いというのが課題と見るが、フルラインナップを持つアエスラ製品によって高機能でありながら低価格製品によって導入がすすめばという見方を持つ。また、アエスラとの提携によりワンストップショップでのコミュニケーション要望に対応できると考える。

アエスラのテレビ会議システム製品は日本国内では VTV ジャパン(東京都港区)が取り扱っている。

■IBE、MPEG-4 AVC/H.264 開発支援パッケージ発売

アイ・ビー・イー(東京都千代田区)は、ウィンドウズ PC 上で動作する MPEG-4 AVC/H.264 を使用したシステムソリューション開発支援パッケージを 2004 年 7 月 21 日から販売開始した。今回発売した MPEG-4 AVC/H.264 関連製品は、容易にエンコード・デコード評価環境を構築することが可能なソフト

ウェア「Professional AVC/H.264 エンコーダーキット」、データ互換性の保証などの規格適合性を容易に検証できるソフトウェア「Mindego Analyzer 4600」の2製品。価格はそれぞれ、19万9500円(消費税込み)、115万5000円(消費税込み)。これらの製品により、MPEG-4 AVC/H.264 による研究開発及び製品開発がより容易になる。

■WorldGate 社とモトローラ、IP テレビ電話で提携



モトローラのブロードバンド関連部門が、米WorldGate 社が開発するSIP などに対応したIPテレビ電話「Ojo」(写真左)の発注を行った。発注額は、500百万USD(約5億5千万円)。モトローラは、WorldGate 社のIPテレビ電話のディストリビューションパートナーとなっており、コンシューマー向けブロードバンドソリューション“Connected Home”の一部として提供する。今回の発注は、2004年5月に取り交わされた両社間の複数年販売契約によるもの。出荷・販売は今秋に開始する予定。また両者は、今後ブロードバンドビデオテレフォニーソリューションを共同で開発していく計画を持つ。

ンシューマー向けブロードバンドソリューション“Connected Home”の一部として提供する。今回の発注は、2004年5月に取り交わされた両社間の複数年販売契約によるもの。出荷・販売は今秋に開始する予定。また両者は、今後ブロードバンドビデオテレフォニーソリューションを共同で開発していく計画を持つ。

■フォーゼント社、特許侵害で11社に対し訴訟提起

テレビ会議向け運用管理システムなどを開発する、米フォーゼントネットワークス社は、米国特許 No.4,698,672 号を侵害したとして、11社を相手取り訴訟を起こした。訴えられた企業は、サンマイクロシステムズ社、Google 社、Yahoo! 社、Acer America 社など11社。同様な訴訟は、今年4月に31社に対しても行われており、同社の過去2年間の知的財産権ビジネス収入は、9000万USD(約100億

円)に達する。JPEG 関連の基本的な特許を同社が持っており、日本のデジタルカメラメーカーも対象となり、同社に対して特許料等を支払った日本企業があるようだ。

テレビ会議向け運用管理システムを提供する会社としてテレビ会議メーカーVTEL 社から袂を分かち設立された会社だが、本業自体の業績が思わしくなく知的財産権ビジネスへ傾斜していると指摘する業界アナリストもいる。

ショートニュース

◆グローバルクロッシング社、マイクロソフトの Microsoft Office Live Meeting をサービスにベースになる技術として取り入れることにより、グローバルクロッシングの、グローバルユーザーに対するウェブコラボレーション会議サービスの強化を行う。既に同社のユーザーはトライアル的にサービスを利用できる。

◆ポリコムは、チャイナユニコムが中国国内320以上の都市、香港、台湾、米国、シンガポール、オーストラリアを結ぶ商用ブロードバンドIPテレビ会議ネットワーク拡張プロジェクトの第2フェーズが完了したことを発表。ポリコムは、2002年の第1フェーズからこのプロジェクトに参加し、Viewstation FX とVS4000を含む800台のテレビ会議端末、多地点接続装置MGC-100を34台、Polycom PathNavigatorを8セット今までに納品している。(参照:英 Videoconferencing Insight 8月9日号)

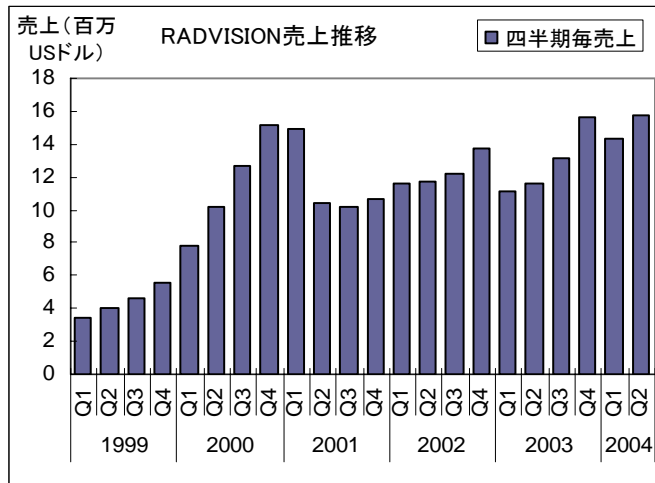
◆ ブラジルテレコムは、企業とブロードバンド個人ユーザー向けのテレビ会議サービス「TVFone サービス」で提供するテレビ会議端末製品として、イタリアのアエスラのミッドレンジセットトップテレビ会議システム Vega Star Silver を主要端末に選定したと発表。



Vega Star Silver

業績発表: 第二四半期(2004年4月—6月)

■ラドビジョン

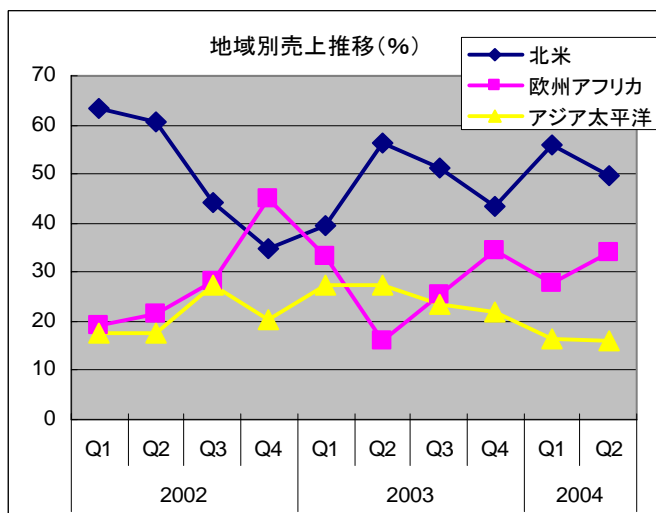
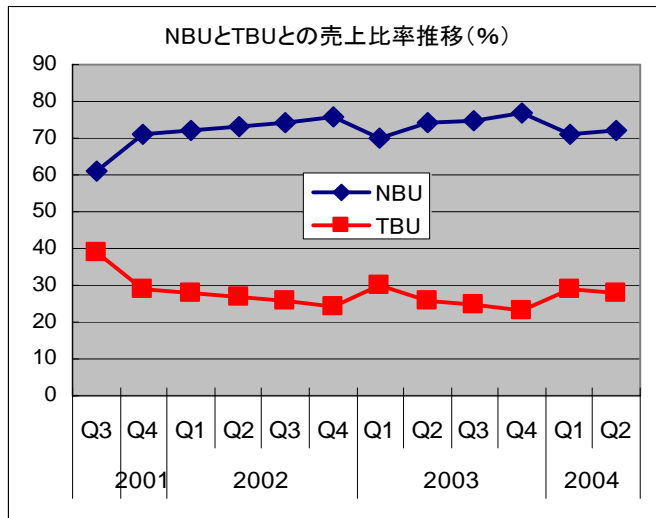


イスラエルラドビジョン社の第二四半期業績発表によると、ポリコム、タンバークと同様(CNAリポート・ジャパン 関連記事:Vol.6 No.12 2004年7月30日号)に、過去最大の売上げを記録した。第二四半期売上は、1570万USD(約17億3千万円)。前年同四半期に比べ35%の売上げ増、第一四半期からは、9.8%増となった。第二四半期の純利益は、110万USD(約1億2千万円)。

同社の事業はNBU部門とTBU部門とに分かれるが、売上の的には、NBU部門が1130万USD(約12億4500万円)、TBU部門が440万USD(約4億8千万円)。NBU部門は、同社の多地点接続装置ViaIPやゲートキーパー、ゲートウェイなどを販売するのが主な業務、TBU部門は、それらの元になる技術を開発、またH.323、SIP、MGCP、3G-324Mなどのツールキットを開発企業などに供給している。ライセンス企業数は500社以上。しかし、売上の的には、NBU部門がほぼ7割以上を占める。

第一四半期と第二四半期を合わせた合計売上は、3000万USD(約33億円)、前年同期の2270万USD(約25億円)から32.2%増。

第二四半期現在での現預金等の流動資産残高は、1億480万USD(約115億円)。当四半期において260万USD(約2億9千万円)増えた。キャッシュフローはプラスで推移。負債はない。



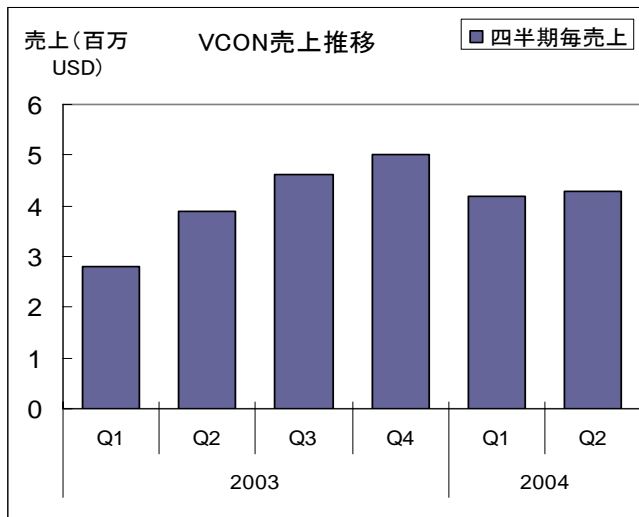
EMEA(欧州中東アフリカ)での当期四半期の売上げは特に強かったとのコメントが同社から出ている。アジア太平洋地区では、東南アジアを統括する営業拠点をシンガポールに設置。極東地域では、今後中国、日本、韓国に注力していく。

■VCON

イスラエル VCON 社の第二四半期の売上は、430万USD(約4億7千万円)、前年同期の390万USD(約4億2800万円)から比べ11%増。また、第一四半期の420万USD(約4億6千万円)から2.4%増であった。

第二四半期について、同社 CEO Yair Shamir 氏は次のよ

うにコメント。「第一四半期と第二四半期を合計した売上は、前年同期比28%増でよい結果を示すものではあったが我々の期待を満たすまでには行っていない。今四半期については、極東地域の売上げが弱かったことが全体の売上げに影響している。しかし、7月に販促に関する相当の施策をうったので今年後半以降効果が出てくるものと見ている。」



VCON社アジア担当によると日本において、最近HD5000やHD3000の引き合いが結構あるようだ。今後受注に向けて販売を強化していくものと思われる。(発売関連:CNAリポート・ジャパン VOL.6 NO.3 2月15日号)

海外レポート



Bangkok International ICT Expo 2004

日時: 2004年8月4日-8月8日
 会場: タイ・バンコク IMPACT CONVENTION CENTER
 主催: Reed Tradex Company Limited
<http://www.reedtradex.co.th/bangkokictexpo/>

バンコクは昨年1月インドに取材に行った際に経由地として数時間寄ったが今回初めて訪問した。タイでは情報化社会、知識社会を目指してICT化 (Information and Communication Technology)を進めるべく今年初めて、ICT Expo をタイ政府バックアップのもと Reed Tradex Company 社が開催した。同社は国内外で展示会ビジネスを手がける会社。来年も同時期頃に開催予定とのこと。

ICT Expo—展示とカンファレンス、タイのテレビ会議、電話会議状況は？

ICT Expo は、内容的には展示会と並行して ITC 関連の、エンドユーザー向けのカンファレンスが開催。展示会には特に製品としては目新しいものはなかったが、タイでのテレビ会議、電話会議の導入状況、ISDN 対IPの割合、市場規模などについて出展社に取材した。

まず、カンファレンスでは、テレビ会議関係では、ラドビジョンがテレビ会議関係のセッションを行っていた。内容的には技術やソリューションを紹介する内容だった。30名ほどの聴講者がいたが、講演者がテレビ会議の社内での利用について質問したところ、1名のみの手挙でタイではテレビ会議はこれからという感じ。また、シスコはIPコミュニケーションなどについての講演を行い、IPコミュニケーションをいかに効果的に活用できるかという観点から、シスコ社員が社内でもどのようにIP電話やテレビ会議を使っているかという説明もあった。たとえば、IPフォンの電話番号のポータビリティ性や頻繁なテレビ会議利用など。

それ以外のセッションでは、VoIP、ブロードバンド関連なども行われ最新の技術などについて講演が行われ、ちなみに、VoIP関連では、NEC日本からの講演者で日本のブロードバンド状況を含めたVoIPの課題などについて発表し日本の状況に熱心に質問をする聴講者もいた。

タイのブロードバンド、価格が普及へのネック

また、タイのブロードバンド状況については、TOT(日本のNTTに相当する)が主にサービスを提供しているが、4万加

入程度。今後ブロードバンドの普及が課題。ある講演者は、現在ではブロードバンドの利用料金がいため、たとえば1000 バーツ(約 2650 円)程度まで下がってくると普及に弾みがつくのではないかとの意見があった。

展示会—タイのテレビ会議、電話会議販売会社出展

展示会では、メーカー出展はソニーと中国のHuawei以外はなかったが、その他ではタイの販売会社の出展がほとんど。ポリコム、タンバーク、VCON、アエスラ、ラドビジョン、クリアワンなどのテレビ会議システムや電話会議システムについては、タイの販売会社を通して展示されていた。ウェブ会議系は、Mahidol 大学の展示のみのようだった。欧米系ウェブ会議の大手は出展していなかった。

シスコのブースでは今年発売になった VT Advantage とタンバーク社の TANBERG1000 テレビ会議システムとの連動などのデモが行われていた。また、シーメンス・富士通共同ブースでは、インターネットやメール、IPテレビ電話などができるセットトップボックス、家庭向けソリューションを展示していたが、シーメンスタイ シニアテクニカルエンジニア Teerayut Leewiboolsilp 氏によると、この製品は基本的にヨーロッパ向けに開発されたものであるため日本市場への投入はないようだ。

チャイナテレコムでは、PC 向けの無料の H.323 テレビ会議ソフトウェアと、Huawei との IP テレビ会議ソリューションの展示を行っていた。H.323ソフトウェアは、無料でチャイナテレコムの指定するホームページからダウンロードできるが、IP テレビ電話サービスを利用することが前提となる。

またチャイナテレコムは、Huawei との関係を強化しており、Huawei のテレビ会議システム ViewPoint シリーズを統合させた IP テレビ会議ソリューションを提供している。

同社のマーケット担当課長代理の李氏によると、中国でのテレビ会議における IP 化はほぼ 100%と見ていいと言っていた。

タイのテレビ会議市場は、200～300 台程度、電話会議は

数千台程度

タイのテレビ会議市場、電話会議市場は、各ブースに回って各社に聞いたが、どのブースからも異口同音に市場データが正式にまとめられていないためよくわからないという返事が返ってきた。

しかし、各社から聞いた大体の値から平均すると、年間でタイでは、テレビ会議端末は、約200台から300台程度、電話会議端末は、2000台程度販売されていると推計される。

ある販社の社長の話だと、金額的には、テレビ会議端末、電話会議端末、MCUなど総計でタイ市場は、400万USD(約4億3900万円)程度と予想する。

タイでの主なユーザーだが、政府機関を中心に、大学などの文教関係、企業では、銀行、メーカーや石油関係などの大手国際企業、外資系など。タイの国内一般企業への導入はこれからという感じのようだ。

タイでは、ある出展社の担当者から聞いた話だと、昨年タクシン首相がテレビ会議を推奨し、タイ政府内に導入されたという。タイ国内各県に設置したりして会議などに利用されている。やはり1回だけの会議のために往復宿泊を含め数日をかけて各県からバンコクに出張するのは、やはり時間的にもコスト的にも無駄という考え方が浸透している。

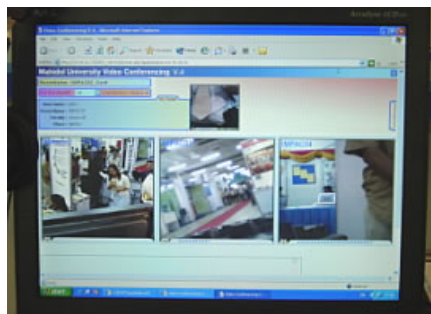
ISDNはテレビ会議利用の7割、今後IP化は進む

タイではブロードバンド環境がこれからというのもあり、ISDNでのテレビ会議利用が主流のようだ。ISDNでのテレビ会議利用は、各社へのインタビューを通して聞いたが、どこも7割程度と言っていた。IPは3割と説明するところもあったが、1割程度ではないかということもあった。その1割程度というところ(販売会社)は、ISDN7割、IPが1割、V.35が2割と言っていた。ただこの出展企業もIP化への流れは必須と見ている。

Mahidol 大学—大学内ウェブ会議システム開発

タイの総合大学である Mahidol 大学では、教授と学生とで、Flashベースのウェブ会議システムを開発した。同校のブースでは、ウェブ会議システム(写真下)など同大学で開発したシ

システムなどが展示されていたが、販売目的のもとに開発したのではなく、あくまで大学内で使うことを前提に開発したという。



大学内には、4キャンパスありキャンパス間でのオンラインミーティングや、講義などに活用するという。また、Flashベースで開発したので、半年間で開発できたそうだが、現在は、まだ映像のクオリティを改善したい考え。今後こういったオンラインミーティングがタイでも活発に使われるのではないかと見る。

取材後感想

タイのテレビ会議、電話会議はこれからという印象を持った。現在のタイのビクユーザーは、政府や国際企業、外資系などが主でタイの一般企業はこれからという感じであったが、電話会議よりもテレビ会議は顔が見えてデータ共有もできるのでいいとか、タイでは電話会議よりもテレビ会議がより人気があるという声などは印象的だった。今後テレビ会議のIP化は、タイのブロードバンドの普及とともに拡大していくのではないかと思う。

今回 ICT は、大変盛況で受付のところから会場内は足の踏み場もないくらいの人入り。特に中高生の来場者を結構見かけた。また、展示の内容がCNAレポート・ジャパンでレポートした大手の通信事業者やメーカー、システムインテグレーターなどだけでなく、別のフロア会場では、パソコンやゲーム、通信機器、モデムなどの展示即売会なども行われていた。

あと、今回の展示会では、各国のパビリオンが設置され日本パビリオンでは、NTTドコモやNTTコミュニケーションなどが出展し、ドコモブースでは日本で販売されている携帯電話などを展示していた。

今までアジアについては、中国、台湾、インド、韓国、シ

ンガポールと見てきたが、今後もアジア地域を中心に、テレビ会議、電話会議事情もCNAレポート・ジャパンでレポートしていければと考えている。アジアは、電話会議が強い欧米とは違い、電話会議よりもテレビ会議に関心の高い市場ではないかと感じる。

(ICTレポート終わり)

会場内写真



H u a w e i 中国
Viewpoint 8060 、
8020 展示



メディアストリーム社
TANDBERG 製品
TANDBERG7000、
TANDBERG880 、
MCU など



シスコ
VT Advantage 、
TANDBERG1000 との
連動



チャイナテレコム H.
323ソフトウェアIPテ
レビ電話
中国では IP でのテ
レビ会議はほぼ100%
とのこと



タイ CSC 社

アエスラ、ラドビジョン、クリアワン(電話会議)、eConf など販売



シーメンス・富士通

ホームユーザー向けセットトップボックス

記事訂正とお詫び

Vol.6 No.12(7月31「日号)については、P6 ページのポリコム
の業績発表の第二四半期売上金額のドル額表示に誤りがあり訂正し、8月11日訂正版に差し替えました。関係者の方々にはお詫び申し上げます。

誤:1338 万 USD

正:1 億 3380 万 USD

編集後記

WorldGate 社のテレビ電話ですが、そのデザインに思わずうなっていました。テレビ電話の訴求点として顔を見てお話しができますというのがありますが、それ以外にもテレビ電話機のデザインというのが今まで若干軽視されてきていたのではないかという気がしています。

たとえばFOMAは全機種がテレビ電話できると思いますが、テレビ電話をするしないにかかわらず、デザインでたまたまFOMAにしたというドコモの加入者もいるのではないかと、むしろそれが多いのではないでしょうか。

それと同じで一般のテレビ電話も同様に今後はそのデザインのあり方が重視されるのではないのでしょうか。たとえばインテリアにあうとか、好みに合うとかです。まず形、色などから入るというのもありかなという感じもしますがいかがでしょうか。

CNA Report

Conferencing News & Analysis

Independent & Unbiased Perspective
Since December, 1999
By Keisuke Hashimoto

CNA リポート・ジャパン

編集長 橋本 啓介 k@cna.jp (CNA Report Vol.6. No.13 2004年8月15日号終わり)次号 Vol.6. No.14は、2004年9月15日頃の発行を予定しております。ありがとうございます。8月31日号は夏季休刊いたします。



プラネットコム社、ポリコム製品

の販売、VSX7000、VSX3000、VTX1000,MGC 等



ソニータイ

PCS-1P、PCS-11P など展示。その他ソニーブースでは、ロボット

のQrioに対する関心が高く人通りが絶えなかった



THS 社

VCON 製品 HD3000 展示